



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. 112
January
2018



成田キャンパスで国際交流親善パーティー

新春のごあいさつ

高木邦格理事長

大友邦学長・三浦総一郎大学院長・矢崎義雄総長、各病院長・施設長

シンガポール工科大と協定締結

第八回 高校生作文コンテスト表彰式

海外保健福祉事情

ベトナム、シンガポール、イギリス、韓国、中国、カンボジア、インドネシア

国際医療福祉大学・

高邦会グループ理事長

高木 邦格



二〇一八年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

国際医療福祉大学は、開学よりまもなく二四年目を迎えます。日本初の医療と福祉の総合大学として開学以来、卒業生は二万一〇〇〇人を超えました。栃木県大田原市をはじめ、千葉県成田市、神奈川県小田原市、福岡県福岡市および大川市の五キャンパスに九学部二二学科を持ち、現在では大学院含め約七八〇〇人の学生が学んでおります。

昨年四月、成田キャンパスに新設いたしました医学部では、国際性を重視したこれまでにない革新的な医学教育が行われています。昨年一二月にはメインとなる一階建ての校舎が完成し、これにより既存の六階建て校舎と連結する四階部

分すべてが世界最大級五千坪のシミュレーションセンターとして稼働いたします。今後医学部では研究にも力を入れ、ゲノム研究センターの立ち上げや卵胞活性化といった生殖医療の研究の推進など世界的な研究拠点をめざしてまいります。

医学部開設に伴い、千葉県市川市の化学療法研究所附属病院が昨年九月に国際医療福祉大学市川病院として生まれ変わりました。今後は大学附属病院として、高度で質の高い医療の提供とともに、学生の教育にも努めてまいります。

また、成田市畑ヶ田地区に二〇二〇年開設予定の国際医療福祉大学成田病院（六四二床）の建築が、昨年一〇月より始まりました。成田病院は国際遠隔画像診断センターや感染症国際研究センターなどを整備し、東京オリンピック・パラリンピックも見据えながら、海外からの患者様にも対応できる質の高い医療とサービスを提供することで世界的なハブ病院をめざします。

本年四月には、赤坂見附駅から徒歩三分という交通至便な場所に六つめのキャンパスとなる東京赤坂キャンパスを開設いたします。赤坂心理・医療福祉マネジメント学部の新設とともに、現在、東京青山にある大学院キャンパスを移転し、学部と大学院が一体となった臨床重視の教育を行います。大学院には医学研究科を立ち上げ、公衆衛生学専攻と医学専攻を新設、医学部と連携し、日本の医学系トップクラスをめざしてまいります。また、大学院としては国内最大級となる千人規模に拡

張し、千人を収容できる講堂を備え、各職能団体とも連携しながら生涯教育の新たな「知の拠点」をめざしてまいります。

国際活動につきましては、二一の国／地域で三九の大学・機関・病院と協定を締結するなど海外における協定先がさらに拡大いたしました。医学部の第一期生として受け入れた二〇人の留学生のうち、将来母国の医療を担うリーダーとして政府や国を代表する医科大学から推薦された留学生に対しては、最大六億円のフルスカラーシップを用意し在学期間中の生活費や授業料などを全額負担して支援しておりますが、本年も同様に受け入れを行います。来年の入学をめざしてすでに一七人の留学生（モンゴル、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、ラオス）が来日し、留学生別科で日本語の習得に励んでおります。さらに、二〇年以上にわたって密接な交流があるベトナム南部最大の基幹病院・チョーライ病院と本学が協力し、日本式の人間ドックを提供する健診センターを本年六月に開設する予定です。開学以来、本学が力を入れてまいりました海外の大学や病院との連携についても、引き続き関係強化を図るとともに、一層の国際医療貢献をめざします。

関連施設につきましては、栃木県の国際医療福祉大学病院が医学部生の臨床実習におけるメインホスピタルとしての役割を果たすため、昨年六月より敷地内に五五床増床のための増築および研究棟の新設と、学生・教員が宿泊

国際医療福祉大学学長

大友 邦



二〇一八年の新春を迎えるにあたり、皆さまに一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、成田キャンパスでスタートした医学部に、アジアからを中心とする留学生二〇人を含む一四〇人の第一期生を迎えました。英語による授業、アクティブラーニング、そして世界的規模のシミュレーションセンターを駆使した高度な医学教育を通じて、国際性と総合的診療能力を身につけ、国内外で活躍する医師を育成するという目的にふさわしい人材が集まってくれたことを、この場で改めてご報告いたします。医学部の関連事項として、昨年九月に、五つめの大学附属病院となる国際医療福祉大学市川病院が開院しています。

本年四月に開設される大学院医学研究科には、基礎医学、社会医学、臨床医学の三つの研究分野からなる医学専

攻（博士課程）と、国際医療学、医療福祉管理学、疫学・社会医学の三分野からなる公衆衛生学専攻（修士課程）が設置されます。同じく四月に開設される東京都港区赤坂の新しいキャンパスには、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部を新設します。心理学は本学にとっては新しい領域ですが、臨床現場に直結した教育を通じて、チーム医療の一端を担う「心のエキスパート」の育成を目指しています。また、東京赤坂キャンパスには、現在青山にある大学院を移転し、きめ細かい少人数教育体制と、社会人が働きながら学べる環境を整えます。ゲノム、人工知能など、さらなる発展が期待されている分野を中心に、大きく変貌する日本の未来を担う総合的大学院教育を推進していきます。

本学の基本理念の一つである「社会に開かれた大学」としての役割を果たすべく、「キッズスクール」「辛齢者スクール」にも継続して取り組んでいきます。昨年で八回目を迎えた高校生作文コンテストには、全国各地の高校生より総数一四四二作品にのぼる多数の応募をいただきました。これらの作品を通じて、「共に生きる社会」と言うのはたやすいが、実現させるためには様々なハードルがある現実を高校生たちが自身の体験として深化させていく過程に触れることができました。

本年も、教職員一同、精一杯努力してまいります。一層のご支援、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学大学院長

三浦 総一郎



新年を迎え、新春のご挨拶を申し上げます。

本学大学院は、保健医療福祉の分野において他分野と連携して指導的役割を果たすことができる国際性を身につけた高度医療専門職、いわゆる「医療における知のプロフェッショナル」の育成を推進し、本年で一九年目を迎える順調な発展を遂げてまいりました。昨年四月に成田キャンパスに医学部を新設し、わが国最大級の医療系総合大学となりましたが、昨年一月には念願の医学研究科の設置認可が承認されました。

本年は、本学大学院にとって以下の三つの嬉しいエポックメイキングな出来事が重なる特別な年になると考えております。

1. 現在、成田の医学部では斬新な構想に基づく次世代の医師育成を目指した医学教育が実施されていますが、医学部と連携して、本年四月から従来の医療福祉学研究科、薬学研究科、薬科学研究科に続く第4の研究科として医学研究科をスタートさせ

できるホテルの建設を開始し、本年中には四百八床の病院として完成予定です。四月には、敷地内に幼保連携型認定こども園も開設いたします。

昨年四月には、大田原キャンパス隣接地に「金丸こども園」を開設いたしました。病児・病後児保育のほか、大田原市では初となる休日保育を実施、多様化する保育ニーズに対応する総合的な教育・保育施設として運営しております。

東京の山王病院と隣接する山王バースセンターにおきましては、分娩総件数が一五〇〇件を超え、多様なお産のニーズにお応えする施設としてのみならず、全科揃った総合的な診療を行いながら先進的な医療を提供しております。国際医療機能評価JCI認証に加え、外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)の認証も受けた国際医療福祉大学三田病院と連携しながら、より一層充実した医療体制を整えてまいります。

九州におきましては、本年一月に大川市では初となるユニット型特別養護老人ホーム「木もれ日苑」を開設いたしました。高木病院・福岡山王病院におきましても、引き続き、急性期から慢性期、予防医学に至るまで高度で専門性の高い医療をご提供できるよう、一層地域医療に貢献してまいります。

本年もグループ教職員一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。最後に、新しい一年が皆様方にとって充実したよい年でありますよう祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

まず。ここでは、四年制の博士課程の医学専攻と二年制の修士課程の公衆衛生学専攻を擁し、国際的な医療医学の研究教育交流拠点として機能できるように、高度な専門医療職業人の育成に引き続き力を尽くしてゆく所存であります。

2. 同じく四月には、大学院の東京青山キャンパスを赤坂に移転し、新設の赤坂心理・医療福祉マネジメント学部とともにスタートを切ります。当所は交通の便が良く一〇〇〇人収容できるホールを備えた素晴らしい施設環境であり、医療福祉学研究科においても遺伝カウンセリングや災害医療などの新しい研究分野を開設し新しい領域やコースを加えるなど、大学院の質・量ともに更なる拡充を図り、絶えずイノベーションを実現できるチーム医療のエキスパートの育成に一層励む所存であります。そして国際性、学際性、利便性を活かした地域住民にも信頼され、他に真似できない未来志向の大学院を目指したいと思ひます。

3. 三つ目は、本年三月の卒業生で、大学院の卒業生が通算三千人を超える予定です。組織の発展には信頼の置ける仲間や縁のある人々の存在が重要であります。多くの卒業生という財産を得て、人々の絆を作りわれわれの信頼性とブランド力を高めてゆきたいと思ひます。これを機会に、本学卒業生大学院におけるホームカミングの催しなども計画しておりますので、新設された大学院赤坂キャンパスにおいて交流を深めていただければと願っております。

皆様との信頼の置けるつながり、そして絆を、何よりも大切にしたいと考えておりますので、本年も皆様のご指導ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

第112回 大田原 キャンパスレポート

大田原市長と留学生との 二〇〇回目の懇談会開催

津久井富雄大田原市長と大田原キャンパス留学生の懇談会が一月二五日、市内のカシマウェディングリゾートで開催された。同懇談会は毎年、「大田原市外国人留学生奨学金」を受給している

本学の留学生が、大学での勉学や学生生活、まちづくりへの提言、市への要望などについて市長と懇談することを目的に開催されている。今回で二〇〇回目となり、一六名の留学生が出席した。



冒頭津久井市長が挨拶で、「留学中は『不易と流行』を使い分け、母国の伝統や文化を守りながらも、日本での流行を取り入れて欲しい。自分の住んでいる地域をよく理解した上で楽しく生活をし、そして将来は地域のリーダーとなり周りの人々を幸せにしてほしい」と激励された。

今年度も市の条例改正により、三年生から六年生までの奨学金月額給付額が五千円増額され、全学年の月額給付額が一万円と

なった。留学生にとって、大田原市への感謝の気持ちを伝えることができた懇談会となった。（大田原キャンパス国際室 佐藤貴子）

一〇〇km 駅伝

理学療法（PT）学科が「国家試験合格一〇〇%」を祈念して、平成二九年一月二八日（土）、大田原キャンパスで一〇〇km駅伝を実施した。

PT学科科学部生の約四〇〇名と教員が一〇班に分れて、班別で走り、襷を繋いだ。四年生は下級生の炊き出しや声援を受け、どの班も無事に一〇〇kmを走りきることができた。このときの思いを胸に、四年生は一〇〇%合格をめざして、頑張っている最中である。



（理学療法学科 講師 石坂正大）

大田原マラソンを応援

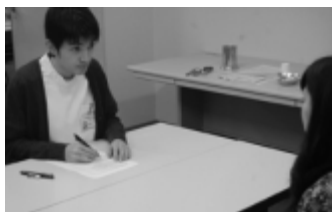
医療福祉マネジメント学科の一年生全員が二月二十三日に開催された「第三〇回 大田原マラソン」の応援に参加した。学生の応援は今年で四回目。本学前三五km地点となっており、沿道に立ち応援を行った。

初めのうちは、中々大きな声で応援することができない学生もいたが、ランナーたちの一生懸命な姿に自然と声が出るようになり、ランナーとハイタッチをしたり、「応援ありがとう、勉強がんばって」と逆にランナーから声をかけられる場面もあった。

客観的臨床能力試験の実施

言語聴覚学科では三年生を対象にOSCE（客観的臨床能力試験）を実施しており、今年も一月からの約一カ月半にわたり、授業の空き時間を見つけて練習に励んでいる。

言語聴覚士には医療従事者として必要な基本的姿勢に加え、コミュニケーションに障害を持つ方を支援するための技が求められる。失語症や聴覚障害など、患者さんの状態に合わせて提供するためには、机上の知識に加え、実際に声を出し、手を動かして練習する必要がある。四年生の総合実習を前に、OSCEを設けることで、臨床技能を磨く良い機会となっている。



練習では患者さんとのやり取りを想定し、患者さんにとのよう伝えたり良いかどうか、互いに切磋琢磨していた。全員ケーシーに身を包み、緊張が隠せない様子であったが、徐々に練習の成果を発揮していた。（言語聴覚学科 研究助手 佐藤友貴）

（医療福祉マネジメント学科 助教 武田真理子）

第一四回 学生&企業研究発表会 薬学部の新グループが受賞

第一四回学生&企業研究発表会（大学コンソーシアムとちぎ主催）が二月二日、帝京大学宇都宮キャンパスで開催された。県内一九の大学などが一堂に会して、「地域社会活性化」「環境エネルギー」「ものづくり」「医学・医療・福祉」の四分野で毎年、学生主体による研究や活動内容を発表し合うユニークなイベントである。今回は学生から合計七〇の発表があり、地域貢献やビジネス展開の可能性などの観点から審査が行われた。学生や企業関係者ら約五〇〇人が集まった。



本学からは三グループが参加。「医学・医療・福祉」分野に参加した薬学科のテーマ「骨転移抑制薬探索の基礎的研究」（学生代表者：常田百合他五名）が朝日新聞社賞、同分野の「ストレス性精神疾患に関与する新規脳内分子の探索 過分極性活性化ヌクレオチド依存性チャネルの役割」（大浦紗月他一名）が栃木県経営者協会賞、「地域社会活性化」分野の「栃木県にもっと刺激を！ シュラシユフルツで地域活性化」（渡邊早紀他五名）がフェドラ賞を受賞した。

最優秀賞選考会での発表はならなかったが、受賞した栃木県経営者協会賞、朝日新聞社賞は、最優秀賞選考会での発表に次ぐもので高い評価を受けた。（総務課 宇賀神祐貴）

第10回 成田 キャンパスレポート

活発な地域連携活動

成田キャンパスでは、本学の持つ医療福祉の知見を広く地域に還元するとともに、学生の教育に地域の方々に参加いただくべく、教職員と学生がそれぞれの活動をおこなう地域の方々と積極的に交流している。

公開講座は、一月一七日の「アロマセラピーでリラクゼーション」（看護学科）で前期の三回が終了した。ここではエッセンシャルオイルを使ったリラクゼーションを紹介し、参加者はお気に入りの入浴剤作りを体験した。



●看護学科の公開講座を担当した天野敏江講師

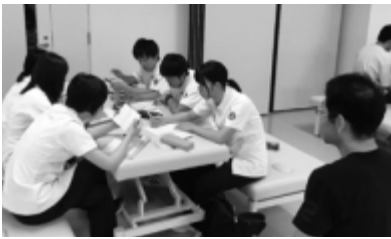
キャンパス見学には、千葉英和高等学校、桜田小学校PTA、大須賀小学校PTA、公津の杜中学校PTA、公津地区社会福祉協議会が来校され、医学部棟を含めて、施設や機器を見学した。さらに、職場体験学習では公津の杜中学校の生徒三名が図書館業務を二日間体験した。

模擬患者の会の活動も継続しており、一月一四日の第五回講習会を受けて、一月九日には初めて模擬患者として授業に参加し、学生を相手に与えられた患者役を演じた。

そのほか、成田市消防本部によるBLS講習会、第三回日本NPP学会、千葉県作業療法士会研修会などが本キャンパスで開催された。（広報 金井雅之）

理学療法学科二年生 「検査実習」レポート

「検査実習」は、理学療法評価に不可欠な検査・測定を経験することを目的としており、後期の隔週水曜日に学生二人一組で近隣の病院・施設で合計五日間実習を経験し、実習のない水曜日は、学内で「PTスキルⅡ演習」を受講する。つまり、学外実習と学内演習を繰り返すことで、実習で理解しきれなかったことを学内で解決できるとともに、実習の経験を共有できる。ひとりが実習で経験できることは限られるが、ほかの学生の経験を共有することで多くの事柄に触れ、さらに、自分が経験したことやわからなかったことが演習内容になるので、演習に積極的に取り組み、次の実習に自信をもって臨んでいる。さらには、教員も実習中の学生の動向、悩み、理解度を知ることができる。



●実習での経験を共有する学生たち

本学科では、このような先駆的な取り組みをとおして、より良い教育をめざしている。臨床現場の先生方には、本学科の実習形態および内容にご理解、ご協力いただき、感謝申し上げます。引き続きのご支援をお願い申し上げます。（理学療法学科 講師 志村圭太 助教 澤龍二）

成田キャンパスの模擬患者さんが 初めて授業に参加

一月九日、医学部において、模擬患者さんが参加する初めて授業「医療面接・身体診察Ⅰ（入門）」を実施した。

成田キャンパス模擬患者の会は、昨年の九月、地域の有志の方にお集まりいただき、第一回講習会を開催してスタートした。以降、計五回の講習によって、模擬患者の心得を習得するとともに、今回の授業で求められる患者役になりきるためのシナリオ演習を重ねてきた。



●授業前のオリエンテーションに臨む模擬患者さん

模擬患者さん、学生、教職員がそれぞれの緊張感をもって、ひとり三分間の医療面接に臨んだ。演技後の模擬患者さんのアンケートでは、「どの学生もよく勉強している」「一生懸命さが伝わってきた」「学生の今後の成長が楽しみ」など、学生に対する評価のことばとともに、「多くの患者さんを救うために役に立てばうれしい」「健康である限り、長く続けたい」という声が聞かれた。最後に学生の代表が、「練習を重ねられ、今日の授業を実現してくださった模擬患者の皆様へ感謝しております」とお礼のことばを述べ、双方にとって実りの多い授業になった。（広報 金井雅之）

国際交流親善パーティーを 開催

二月八日、学生食堂にて、成田の清泉一成市長、関根賢次副市長、成田市国際交流協会の品田等理事長などを来賓としてお招きし、国際交流親善パーティーを開催した。

現在、成田キャンパスで学ぶ留学生四人、外国人専任教員二人の多くが参加し、民族衣装も数多く見られた。学科ごとにステージに上がった留学生はキャンパス生活の様子を報告し、留学生別科の学生は四月の学部入学に向けて期待と決意を語った。見事な日本語で会場をうならせる留学生もいて、彼らの勉学に対する真摯な姿勢をうかがうことができた。



●母国の踊りを披露するミャンマーからの留学生

歓談の時間には、留学生は来賓や教員と進んでコミュニケーションをとるとともに、他学科の留学生とも積極的に親睦を深めていた。その合間にはミャンマーとカンボジアの学生がそれぞれ母国の舞踊を披露して会場を盛り上げ、最後には職員もギター演奏に加わり、全員で「三六五日の紙飛行機」を合唱した。（国際交流センター 佐野美智子）

第45回 小田原 キャンパスレポート

スポーツ大会

小田原キャンパス城内校舎で二月二日、晴天のなか、第二回スポーツ大会が開催された。

初めての試みとして、午前は会場を体育館とグラウンドの二カ所に分け、体育館ではバスケットボール、バレーボール、グラウンドでは女子はドッジボール、男子はサッカーを実施した。午後は会場をグラウンド一カ所にして、棒とりを男女別に行い、ラストは学科対抗リレーで締めくくった。多くの学生が楽しめるようにと実行委員の学生達が話し合い、考え練ったプログラムであった。



●学年学科別リレー

参加し、にぎやかな大会となった。実行委員長の看護学科二年の池谷空透さんが司会進行を務め、各競技に出場する学生を誘導し、出場学生も二会場をスムーズに移動した。応援の学生の声援も熱を帯び、最終種目の学年学科別リレーは最高潮の盛り上がりを見せた。

四回目の開催となった城内校舎では事前に実行委員も加わりグラウンド整備を行い状態の良いグラウンドでの開催ができた。スポーツ大会実行委員の学生達は準備や調整、当日二カ所での開催に苦労する様子もうかがえたが、委員として一生懸命に頑張る姿が見られた。各学科、学年の絆を深め合い、記憶に残る充実した学生生活の思い出の一日となった。

(学務課 下田智香子)

市民公開講座

小田原キャンパス本校舎で一〇月二一日、市民公開講座を開催した。小田原キャンパスの市民公開講座は各学科の知見を活かした体験型講座と、本学教授陣の講演をミックスさせているのが特長で、教員と学生が一緒に運営している。



●インボディでの測定

今年度のテーマは「健康は足元から!測って変わるあなたの未来(あした)」。本学教授陣による講演は、作業療法学科の藤本幹教授による「健康習慣を身に着けるために」と、理学療法学科の小澤敏夫教授による「いつまでも動ける身体づくり」を開講。また、体験型講座として、インボディで体脂肪・骨筋量などの総合的測定をする講座、転倒リスクを測定する講座、バイコンでの歩き方を評価する講座、スクエアステップを体験する講座などを開講した。

当日は雨模様だったが、二〇〇名を超える地域の方々から来場。来場者からは「普段できない体験ができ、健康の意識を高めるきっかけとなった」「学生が一生懸命で好印象だった」など評価をいただいた。

市民公開講座の様子は、本学ホームページと動画サイト「YouTube」で紹介している。「小田原キャンパス」「市民公開講座」で検索ください。

(総務課 高久晃)



●バイオテックスでの膝伸展筋力測定



●スクエアステップの体験

小田原市主催のイベントでボランティア

一月一八日、一九日に開催された「第一九回城下町おだわらツデーマーチ(主催:小田原市など)」に、スポーツコンディショニング部(以下、スポコン部)の学生がボランティアとして参加した。

スポコン部は、理学療法学科の学生が中心となり、授業で教わる実技の内容以外にも、ストレッチやテーピングなどを放課後の時間に学んでいる。このツデーマーチでは、ウォーキングされた参加者を対象にストレッチを実施させていただいた。普段から学生が主体となつて活動しているため、当日も先輩が見本となり、下級生に指導しながら行い、各学年が目的を持って取り組むことができた様子だった。

来場者は、「毎年ストレッチをしてもらっています」「終わった後は楽になります」などと話していた。今回の活動は、地域の方とふれあうことで本学を認識していただけたとともに、学生にとっても臨床実習に向けた良い機会になったのではないかと確信している。

(理学療法学科 右田正澄)



●ストレッチをするスポーツコンディショニング部

第19回 大学院 キャンパスレポート

第二回オープンキャンパスを開催

一月一四日(日)、大学院東京青山キャンパスにおいて本年度第二回となるオープンキャンパスを実施した。昨年九月と同様に、対象となる分野により午前と午後に分けた二部構成として開催したもので、多くの方にご来場いただくことができた。全体説明会の冒頭では三浦総一郎大学院長より、福沢諭吉の言葉を借りて「知の力の創生」の重要性が説かれ、高い専門性を備えた知のプロフェッショナルとなるために、本大学院で学ぶことのメリットが紹介された。全体説明に引き続き、実施された個別進学相談会では、参加者はそれぞれ興味のある分野のブースに赴き、自身の研究したいテーマや、進学に関して不安に思うことなどを直接、教員に尋ねることが出来た。



●個別進学相談会の様子

第一〇回診療情報アナリスト養成分野主催講演会を開催

平成二九年一月二六日、診療情報アナリスト養成分野主催の講演会を東京青山キャンパスで開催した。本講演会は今回で第一〇回目。数え、「次世代に期待される診療情報管理士とは」「ICD改訂とDPCデータ分析から学術研究へ」と題し、約七〇名が参加した。

三浦総一郎大学院長、山本康弘教授(分野責任者)のご挨拶に始まり、講師に大道久先生(日本大学名誉教授、日本診療情報管理学会監事)、小川俊夫先生(本学大学院准教授)、高野与志哉先生(地方独立行政法人長野市民病院診療情報管理室)をお招きし、質の高い医療提供のために求められる診療情報の分析と活用の方をテーマに講演いただいた。また、講演会後に進学相談会も実施され、進学を希望する参加者は分野教員の話に熱心に耳を傾けていた。

(大学院運営室 近納一重)



●講演会の様子

文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

一月一〇日(日)、東京青山キャンパスにて「ゲノム情報はがん治療にどのように役立つのか?」をテーマに、がんプロフェッショナル養成のための教育ワークショップを開催した。辻省次先生(国際医療福祉大学医療福祉大学大学院教授)の基調講演に続き、高橋克仁先生(国際医療福祉大学三田病院肉腫センター長)、樋口肇先生(国際医療福祉大学医学部臨床腫瘍学主任教授)ら、癌医療のスペシャリストから講演をいただいた。

本プランでは、今年四月より、「ライフステージに対応したがんプロフェッショナル多職種協働人材育成コース」および「ゲノム解析医療・希少がん診療に精通した医療者育成コース」を大学院課程に開設する。

(大田原キャンパス教務課 鈴木享)



●ワークショップの様子

第25回 塩谷看護 専門学校 キャンパスレポート

第二回生「看護の誓いの式」

一月一五日、第二回生四八名の「看護の誓いの式」が、実習関連施設の関係者、保護者・在校生が見守る中、厳かに挙行された。式が始まる前、学生たちはかなり緊張していたようだが、終了後は、この日の天気のように晴れやかな表情を浮かべていた。

式の中で、ナイチンゲール誓詞を全員で唱和し、各々が改めて看護師になる決意を心に刻んだことと思う。

本校は、この式典を一年次に実施。学生は講義や演習をとおして看護を学んでいるが、臨床での実習はこれから。三月の初めての実習(基礎看護学実習Ⅰ)では、患者とのコミュニケーションや、知識不足・看護技術の未熟さに悩む学生もいると思う。しかし、この日の感動と「看護師になる」という決意を忘れず、自分の目標に向かって、前進してもらいたい。

(教務部 砂川かおる)



第35回 福岡 キャンパスレポート

RKBラジオまつり

福岡タワー前広場において「RKBラジオ祭り」が一〇月二一・二二日、開催され、福岡看護学部からは地域交流小委員会委員(辻奈美講師、溝部昌子)と教職員二〇名、学生一四名が参加した。ブース出展では、骨密度・血圧測定、小児BLSモデルや海外研修報告パネルの展示を、ラジオ番組では三年生植木彩乃さんが臨地実習や学生生活について紹介した。来訪者の列が途絶えることはなく、骨密度への関心が特に高いようであった。当初は教員が測定や結果の説明を行っていたが、三年生、二年生、一年生も順に活躍した。イベント全体の賑やかな雰囲気も手伝って、順番待ちの方、測定の実施、結果の説明を通して多くの住民の方と直接言葉を交わし触れ合ったことで、学生からは充実感や達成感を示す言葉が聞かれた。低学年にとっては、看護師や保健師が行う一般市民への対応を体験する貴重な機会となった。二日目は台風の



●福岡タワー前広場へ出展

学友会主催球技大会

学友会主催の球技大会を二月一日に開催、一・二年生の約六〇人が参加した。競技種目はバレーボール・バスケットボール・ドッジボールで、各競技の経験者の人数を考慮し力がほぼ互角になるよう振り分け、さらに学年関係なくチームを編成した。同大会は、ただスポーツをするのではなく、普段交流のない他学年の学生との交流を目的としており、このようなチーム編成によって、学年を越えて親睦が深まったと思う。今回の球技大会はこれまでの学校行事の中でも、一番他学年との交流が生まれ、盛り上がりつつと実感した。また、スポーツは普段話さない人や他学年の人とのコミュニケーションに最適であるとともに、実習や授業で忙しい看護学生にとって良いストレス発散にもなったと思う。

初めての開催であったため、段取りや細かいルール作り、統率を取るのが難しく、進行があまりうまくできなかったことや、告知のタイミングが遅くなり参加できなかった学生もいたことなどが反省点となった。

今回が初の球技大会開催ということでも戸惑うことも多くあったが、学友会メンバーの協力もあり、満足のいく球技大会ができたのではないかと思う。今後も球技大会が学校行事として開催されることを願っている。

(看護学科 二年 齋藤孝輝)

高大連携事業(沖学園)

福岡看護学部では、昨年に引き続き、教育、人材育成、地域の発展に貢献することを目的に、沖学園高等学校(福岡市)との高大連携事業を実施した。七月八日と一二日の二日間、同校の社会総合学科・保育福祉コースの生徒約七〇名を対象に、本学教員が沖学園高等学校のラウンジを利用して次のテーマで講義した。

「老年看護学 加齢による変化について」

(看護学科 助教 岩倉真由美)

「大人とは、子どもとは?子どもを知らう」

(看護学科 特任准教授 上野恭子)

「自分も相手も大切に自己表現法を学ぼう」

(看護学科 講師 石橋昭子)

一部を紹介すると、石橋講師の講義では、アサーティブ(自己主張)について、ドラえもんを例にとり、のび太・ジャイアン・しずかちゃんの関係から自分の意見を押し通すことなく表現する方法を学び、コミュニケーションを取る練習も行った。

難解になりがちな専門的な講義内容を講師が柔らかく説明することで、生徒も自然と内容に引き込まれ、真剣な眼差しで講義に聞き入っていた。

今年で二年目となる高大連携事業であるが、今後も医療福祉の様々な分野へと展開していくこと



●講義を行う上野特任准教授

で、更なる発展へとつながることを期待している。

(入試学生募集課 井上雅博)

学生クリスマス会

学友会主催のクリスマス会を二月一三日、開催した。クリスマス会は毎年の恒例行事で、学年を越えてみんなが楽しめ、さらに運が良ければゲームの景品ももらうことができるため、多くの学生が参加した。

ビンゴゲームでビンゴになった参加者からくじ引きで景品をゲットできる。毎年注目の景品だが、今年は笑いがでるようなネタものからテーマパークのペアチケットまでバリエーション豊富に取り揃えたことで、当選するたびに笑いや歓声が起りとても盛り上がりつつ。さらにお菓子やジュースもたくさん用意し、自由に動き回れる雰囲気を作ることで、同級生との親睦が深まるのはもちろん他学年との交流もすることができたのではないと思う。

多くの学生が参加したため、みんなをまとめることやスムーズに進行することに苦戦した。また準備段階でも計画的に進めることができず、当日の会場装飾がクリスマス感が少ないさびしいものになってしまったと反省している。短時間だったが、参加した学生は日頃の実習や授業の息抜きになったのではないかと思う。来年度の学友会にはもっともっと盛り上げていってほしいと願っている。

(看護学科 二年 諸永龍平・二年 永田萌華)

第49回 大川 キャンパスレポート

理学療法学科 卒業研究発表会を開催

理学療法学科四年生(第一〇期生)卒業研究発表会を一〇月十四日、開催した。一〇のゼミより二三の演題が発表された。

卒業研究を通して、研究手法について学ぶことのメリットは、臨床における研究の推進と専門性を深めるなど、学生個人の付加価値を高める要素につながる。卒業研究活動は四年前期からそれぞれ関心のある領域ごとに分かれ、指導教員の下、研究テーマの立案、関連文献の精査、倫理委員会における審査、データ収集、統計などがある。

卒業研究発表

会は大川キャンパス講堂で、全ての演題を全国学会と同様の形式であるポスター発表形式で行った。また、各グループがローテーションで各演題を回り、全ての演題内容を聴取、質疑応答ができるものとした。

臨床実習期間中の三年生も参加、来年度卒業研究を履修する上で研究内容を知ることができ、希望するゼミや指導教員を決定する参考になったと思われる。

今回、理学療法学科三四年生の学生が最もよかったと思う演題に投票し、奨励賞、優秀演



●最優秀演題賞を受賞し記念撮影

題賞、最優秀演題賞を決定した。

●最優秀演題賞

『車いすバスケットボール専用車の駆動動作の違いによる速度変化』

車いすバスケットでは、STOP&GOを繰り返すことから、静止位置からの加速が重要である。本研究では大きく強く漕ぐ方法(トルク型)と速く細かく漕ぐ方法(ケイデンス型)の二条件の速度変化について調査した。一般的には、車いすを早く漕ぐためには、トルク型が推奨されるが、五メートル程度の短距離移動であればケイデンス型の駆動方法も有効であることが結果から明らかになった。

●優秀演題賞

『暗算と語想起による注意分散が二次視覚野の神経活動に及ぼす影響』

固視点を注視した状態で連続減算および九九の暗算と語想起が右半球の一次視覚野の神経活動を抑制させることが明らかになった。

●奨励賞

『若年健康男性の腰背部に対する持続的圧迫刺激が自律神経および腸蠕動音に与える影響』

腰背部への軽微な持続的圧迫刺激は、副交感神経の活動を高め、腸の音を大きくすることが分かった。今後は、慢性便秘症への適応が期待される卒業研究は毎年、理学療法全国学会大会や理学療法学学会等の学会にて発表しており、研究内容が学術的にも非常に高いことを示している。学生が臨床に出て一年目、全国規模の学会で発表することは大変有意義であると考えられる。

在学中、研究手法について、端とはいえ学んだことは臨床に出てからの大きな糧になると確信している。この卒業研究を通して学んだことを生かし、研究を継続してほしいと願っている。

(理学療法学科 准教授 高野吉朗)

平成二九年度 地域公開講座を開催

一月二五日、大川キャンパスで「地域公開講座」を開催し、地元大川市をはじめ、六〇名を超える地域の方々に参加いただいた。前半は、「がんを予防しよう!」をテーマに、本学医学検査学科の富安聡助教が、「がん」の研究や予防法について紹介した。

続いて、「健康と食生活」健康食品やサプリメントの上手な利用方法」と題して、同学科の佐藤信也教授が健康食品の効果に関する科学的根拠や安全性について解説するとともに、最終的には普段の食生活をバランス良く摂ることが最も重要であるとアドバイスした。



●講演を行う佐藤教授

講座の最後に、地域交流委員会委員長の為教哲司言語聴覚学科長が、「バランスの取れた食事と規則正しい生活を通して、健康な体を維持していくことが大切である」と総括した。今後も、本学の教員が教育研究の成果を広く社会に開放することと、地域の皆様が気軽に参加できる生涯学習の場を積極的に提供する取り組みを継続していきたい。

(入試学生募集課 井上雅博)

韓国インジェ・コニャン大学 OT学科受入研修歓迎昼食会

二月一八日、医療研修を目的に大川キャンパスを来訪した韓国インジェ大学、コニャン大学の作業療法学科学生二名と引率教員二名の歓迎昼食会を開催した。本研修は両大学の正規海外実習カリキュラムの一環として二〇一〇年から実施しているもので、本年度で八回目を迎える。

歓迎昼食会では、辻貞俊学部長による歓迎挨拶のあと、インジェ大学アン・ソンジョン教授、コニャン大学キムスギョン教授より、約二週間の研修に臨むにあたっての抱負と所感が述べられた。両教授とも本研修を「関連施設での実習、専門領域の講義、学生交流、観光がバランスよく組み込まれた研修プログラム」と評価したうえで、「急性期、回復期、維持期、精神科領域にいたるまで、日本における作業療法士の役割を包括的かつ段階的に理解し、その現場に触れることは、韓国学生にとり貴重な経験となる。このような得難い機会を設けていただいたことに深く感謝申し上げます」と謝意を伝えた。

今回来訪した韓国学生は、日本同様に高齢化が進む韓国の医療福祉の将来を担う未来の作業療法士として、本研修が彼らにとり、数年後も振り返ってももらえるような、有益な経験となることを願っている。

(学生国際係 杉原活郎)



●昼食後の記念撮影

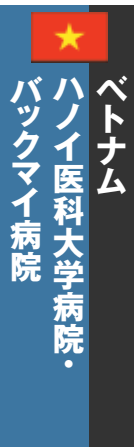
海外保健福祉事情

国際医療福祉大学では二〇一七年も夏休み期間中に約二週間、総合科目「海外保健福祉事情」が実施された。

今年度の研修先は合計一四カ国二五グループにわたり、総勢八二七名が派遣された。参加学生は約三カ月間、在籍するキャンパスでの事前講義に参加し、研修国の基本情報や危機管理対策について学び、渡航に備えた。研修先では現地スタッフや引率教員のサポートのもと、病院や医療関連施設で実習や見学を行い、研修国の保健福祉事情や日本との違いを肌で感じてきた。

今号では、誌面の都合上、前号に掲載できなかった七カ国八グループを紹介する。

(大田原キャンパス国際室 田所清美)



日本と異なる環境での講義聴講や病院見学
成田保健医療学部 医学検査学科
准教授 清宮正徳

ベトナムハノイで研修を実施した。現地は連日三〇℃以上で蒸し暑く、ベトナム料理が口に合わない学生もいたが、みんな頑張つて乗り切った。道路はバイクがとても多く、歩行に気を使った。

ハノイ医科大学病院、バックマイ病院等を中心に、講義の聴講や病院見学等を実施した。学生は緊張した面持ちで参加していたが、自

身の学科の関連施設には興味を強く抱いた様子であった。Culture Exchangeはとても盛り上がりつつあった。最終日には、今回の研修について学生がまとめ、英語で発表した。



●Bach Mai Medical Collegeの学生さん達との記念写真

初めての海外での研修で変わった医療に対する考え方
福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 江頭由珠

キャンパス関係なく交流することができ、TOMODACHI HOURでもベトナムの学生と英語や日本語をお互い駆使しながら積極的にコミュニケーションをとることで楽しめた。

実習では、廊下でベッドに寝ている患者や待合場で地べたに座って順番を待っている患者、家族が患者の身の回りの世話をしているところを目の当たりにして、日本とは全く違う状況に驚いた。ベトナムの病院は様々な国に支



●世界遺産ハロン湾の前にて



貴重な体験をした学生たち
総合教育センター 語学教育部
助教 佐藤雄介

九月二日より一二日まで、大田原、小田原、成田、大川の四キャンパスから学生二九名、教員二名が参加した。

講義や施設見学を通じて、シンガポールの医療福祉制度の優れた点や、抱えている問題などを学んだ。ナンヤン・ポリテクニクでの最新機器を使用したロールプレイ体験（シミュレーション・ベースド・トレーニング）は学生たちにとって特に良い刺激となったのでは



●BIZLINKにて



●KYDZでのロールプレイ

ないかと思われる。今回の研修で視野を広げ、国際的に活躍できる人材へと成長していくことを期待している。

有意義だったシンガポール研修

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 木山 匠

シンガポールの医療は非常に発展しており、日本の病院では見ることができないような医療機器をたくさん見せていただいた。なかでも、人間の声に反応して応答をするマネキンを使った、より臨床現場に近い形の設備が研修先の学校（NYP）内にあることに驚いた。

また、観光スポットも多くあり良い思い出となった。普段は接する機会が少ない他キャンパスの人との交流も深めることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。



●NYP内設備 (Simulated Based Learning)



学生の専攻に配慮した講義と施設見学
福岡保健医療学部 理学療法学科
講師 徳江 武

八月二七日から九月五日にわたり、大田原キャンパスの学生三名、成田キャンパスの二名、大川キャンパスの学生四名がイギリス研修に参加した。

イーストアングリア大学が支援してくれた。昨年度と同様、イギリスの医療制度と各専門職に関する講義が提供されたのに加え、今年度は認知症に関する講義二つと理学療法士に関する講義もあった。

施設見学で学生は、自分の専攻に一致する専門職からお話を聞き、職場を見学したことも幸いし、よく質問し、日本の医療事情を伝えた。



●ノーリッジ大聖堂にて

貴重な経験の連続だった一〇日間

薬学部 薬学科
三年 長井亜弥

今回の研修は日数にすれば長くはなかったが、各分野の研究者や手術室技師、助産師、薬剤師、看護師、病院や施設の職員など、多くの専門職の方々から講義をしていただき、また、病院や福祉施設など様々な施設を見学させていただいた。

日英両国の医療制度の根本的な違いや共通の問題など、医療の現状を現地の方から直接にうかがうことができたことも含めて、貴重な体験ばかりだった。この研修で得たことを、今後の勉学や、将来現場に出た際に生かせるよう努めていきたい。



臨床検査に特化した唯一の研修先での充実した交流
成田保健医療学部 医学検査学科
教授 長沢光章

韓国大邱韓医(テグハニ)大学での研修には医学検査学科五四名、看護学科三名が参加した。

テグハニ大学は、臨床検査に特化した唯一の研修先であるが、看護学科の学生は一部看護に特化した研修が行えて大変有意義であった。大邱は盆地のため韓国で最も暑い地域、市街地から外れた大学内の学生寮での生活は学生五七名の大所帯であったが、講義・実習をはじめ、韓国文化に触れたことや韓国学生との交流など、ほとんどの学生が初めての海外にもかかわらず積極的に取組んでいた。



●遺伝子検査実習風景 (韓国テグハニ大学)

検査業務の実態から最新検査技術の手法まで

成田保健医療学部 医学検査学科
二年 千葉清徳

韓国テグハニ大学において計一日間の海外研修を行った。

包埋した組織片の作製、H E染色やPAS染色を行った細胞像を自ら観察したことなど非常に有意義であった。また、病院見学では実際の患者さんの検体から切片標本を作製する現場を確認することが出来たほか、遺伝子検査や微生物検査が両国においても共通して重要であることを理解できた。検査業務の実態と各検査において何が重要か、また最新検査技術の手法を知ることができ、非常に満足した研修であった。

韓国 乙支(ウルチ)大学

ウルチ大学との交流
福岡看護学部 看護学科
教授 白石裕子

昨年の韓国コニャン大学の引率に続き、今年はウルチ大学の引率を受け持った。ウルチ大学はソウルに近く、様々な国の大学と交流を行っていた。今回は主にPT学科の先生方との交流が多く、韓国のリハビリテーションの状況について学ぶことができた。看護では本格的なシミュレーション室もあり、慶應義塾大学の学生も研修に来ており、看護教育のレベルも高いと感じた。見学の時間も多くとられ、特に韓国民俗村は興味深いところさらに韓国についての理解が深まった。

広いリハビリ施設 検査機器の多さを実感

成田保健医療学部 理学療法学科
二年 由井裕人

韓国のウルチ大学で学んだことは、理学療法法の検査で扱う機器が日本と比べて多く病院に設置されていたことである。韓国のリハビリ施設は、私が一年生から今まで見てきた日本の実習先よりも広く、その分、医療機器が多く設置されていた。

このため、多くの患者さんを一度に見ることができ、同時に、病院内にい



●ウルチ大学PT学科の先生方と

る理学療法士の人数も多いと分かった。また、韓国では職業にST(言語聴覚士)が存在せず、嚥下障害など、日本ではSTが担当するものをOT(作業療法士)が担当することがわかった。

中国 中国リハビリテーション 研究センター(CRRC)

中国での研修を終えて
薬学部 薬学科
教授 三浦隆史

中国での研修は、参加学生にとって本学出身の先輩にあたる先生方も在籍されている「中国リハビリテーション研究センター(CRRC)」において行われた。

言葉の壁の高さは、部門により様々であったが、その壁を乗り越えて、新しいことを吸収しようとする学生たちの積極的な態度は印象的であった。また、多大なるご尽力に対する我々の感謝に、「当たり前のことをしていただけ」と応えてくださったCRRCスタッフのみなさんの笑顔も忘れられない思い出となった。

印象的だった 中国特有の医療発展

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 小田和弥

中国での研修のなかで、言語の壁と文化の違いは研修中の私の生活に多大な影響を与えた。そのおかげで私は他の言語を学ぶ必要性や、他の国の文化を見ることのできる視野の広さの重要性に気付くことができた。

また、医療の現場では、中医という



●万里の長城にて

中国特有の医療が発展し、西洋医学と組み合わせ治療を行っており、民間でも多く利用されていることが印象的であった。今回の研修は私のこれからの学習の指針を定めるのに多大な影響を与えるものになった。

カンボジア カンボジア国立保健科学 大学

カンボジアの歴史と
医療事情
福岡保健医療学部 理学療法学科
学科長 森田正治

カンボジア国立保健科学大学の全面的支援のもと、首都プノンペンでは国立母子健康センター、カルメッテ病院、カンタボパ病院、プノンペンから約三〇〇km離れたシエムリアップでは、州の保健機関や州立病院、アンコール小児病院、民間クリニックを視察するプログラムが用意されていた。

ポルポト政権による医療崩壊から約四〇年が経過した現在、可能な限りすべての人に医療を平等に提供しようとする国策及び医療スタッフの情熱を肌で感じ、人的・物的支援のあり方を再考する良い機会となった。

見習うべき スタッフの姿勢

福岡保健医療学部
理学療法学科
二年 塚本陸斗



●アンコールワットでの集合写真

カンボジアの研修を通して、日本と途上国であるカンボジアの医療を比較することで両国における病院の役割について考えることができた。国は違っても患者を良くしたいという思いは万国共通であるため、設備が不足しているカンボジアの病院のスタッフは皆熱意をもって患者に接していた。このカンボジアのスタッフの熱意は私達が逆に見習うべき姿勢だと痛感した。観光の面では、世界遺産であるアンコールワットにも行くことができ充実した時間を送ることができた。

インドネシア ウダヤナ大学

インドネシアの医療事情に
触れて
成田保健医療学部 理学療法学科
助教 澤 龍一

インドネシアの医療事情は日本とは大きく異なっており、大変興味深い研修であった。社会状況の異なる環境で、医療の質は決して高くないにもかかわらず、支えあって生活する姿は、日本が今後目指していくべき姿であり、学生の間にその経験ができたことは大変有意義であったと思われる。



●農村部の高齢者施設で利用者との集合写真

心に残る 温かさ医療への熱意

薬学部 薬学科
二年 高野実愛

バリ島での研修で心に残っていることは、人々の温かさである。

医療施設を訪れた際、多くの方が「こんにちは」と挨拶してくれたが、それは日本から研修に来た私たちを受け入れていたのだと知った。

研修では、様々な職種の医療従事者にお会いし、インドネシアの医療について学ぶことができた。私たちの質問に丁寧に答えてくれ、現地の人々の医療に対する熱意を感じた。私たちもバリ島に親しみ、貴重な経験をすることができた。この研修を忘れず、日々努力していきたい。



●研修先のウダヤナ大学にて

附属病院

国際医療福祉大学病院

病院長 大和田 倫孝



山形大学卒、医学博士。前自治医科大学産婦人科准教授。日本婦人科腫瘍学会認定指導医、婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本臨床細胞学会認定細胞門医、日本がん治療認定医機構がん治療専門医。

当院は、地域の皆様の健康を守ることと同時に、国際医療福祉大学の附属病院として、地域の医療福祉に貢献する人材育成を使命としています。また、本学医学部の第一期生が臨床実習を開始する二〇二〇年からは、当院が中核的な役割を担う臨床実習施設となります。

当院の大きな特長は、安心の医療をご提供するために関連診療科でセンターを形成し、複数の専門家がチームとして十分な協議のもとで医療を実施していることです。診断から治療、治療後のケアから緩和医療、そして高度医療から地域医療機関と連携して実施する慢性期医療や在宅医療まで、乳幼児から高齢者までの幅広いニーズに 대응する医療とケアをご提供しています。

加えて、多くの皆様や企業にご利用いただいている予防医学センター（人間ドック）では、地域の方々の健康を見守り、健康維持と病気の早期発見に貢献しています。医師育成にも努めており、四〇八床への増改築とともに、診療・教育・臨床研究の一層の発展に努めて参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 須田 康文



慶應義塾大学卒、医学博士。国際医療福祉大学三田病院整形外科部長、慶應義塾大学病院整形外科診療科副部長を歴任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

当院は、塩谷医療圏を中心とした地域の方々の健康を守る基幹病院の役割を担い、日々医療の充実に努めております。

昨年は、四月一日付で栃木県より地域災害拠点病院ならびに災害派遣医療チーム（DMAT）指定病院に指定されました。それに伴い、災害発生時に傷病者の緊急医療支援を行えるよう、院内において訓練を実施しています。その他、災害拠点病院指定の一環として自家発電装置の増設など、インフラ整備も進めました。

院内の機能性を高めていくために、昨年四月に、外科診察室五部屋、内科診療室三部屋の増築、救急治療室の拡張を行い、救急時や時間外での受入体制が向上しました。増築に併せて新MRI室も建築し、MRIやCTも新機種への入替を行いました。

また、予防医学センターの改修を行い、患者様のご利用環境を充実させました。

本年は全スタッフがより一層のレベルアップを図り、良質な医療を提供していけるよう取り組んでまいります。

本年もご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学市川病院

病院長 佐伯 直勝



千葉大学卒、医学博士。千葉大学名誉教授、前千葉大学脳神経外科教授。日本脳神経外科学会専門医、日本神経学会専門医。

昨年四月の医学部設立に伴い、当院は五つ目の附属病院として、九月一日より国際医療福祉大学市川病院となりました。

唯一、成田キャンパスと同じ千葉県内にあり、地理的に最も近い附属病院として、診療研究、教育的役割が期待されています。今後若い医師や医療福祉専門職の教育認定施設になることが使命となります。

一昨年度からは医師を大幅に増員し、診療科も増設しました。市川市の救急輪番に参画し、救急疾患に対応する体制も具体化しました。今年はさらに診療体制を拡充させます。そのために、メディカルスタッフ、施設・器材の充実など課題は山積していますが、一つひとつ解決してゆく必要があります。

四月からは、DPCの導入、診療報酬・介護報酬の同時改定など、医療環境の変化への対応が迫られています。医療環境が変わっても、医療人として一人ひとりの患者さんとしつかり向き合い、最良の医療をご提供するという従来の職責に変わりはありません。本年もよろしくお願いいたします。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

病院長 宮崎 勝



千葉大学卒、医学博士。千葉大学大学院教授、同大学医学部附属病院院長、同大学副学長、第112回日本外科学会会長、日本肝胆膵外科学会理事長を歴任。本学副学長

当院は東京都心の急性期病院として、良質な高度医療を多くの患者様に提供する病院として機能しております。

二〇一七年四月には多くの医師、特に新設された国際医療福祉大学医学部教官の方々が加わり、体制が充実されました。外科系では年間手術件数は三四三三件（うち全身麻酔二七四〇件）となり、多くの患者様に高度な外科医療を提供させていただくことができました。また、内科系も肉腫センター、血液内科等の充実により多くの実績を挙げできています。

医学部が昨年四月に成田キャンパスに開設され、当院もグループの他病院と同様に、さらなる病院機能の充実が求められているところでもあります。専門性の高い優秀な臨床医を多く抱える当院では、これまでの病院独自の文化、伝統的なよい面を保持しつつ、高い臨床能力を持った医療人が一段とその実力を発揮できるよう、病院として条件整備を行い、国内トップクラスの病院としてより一層発展していきたいと考えています。

本年もご指導・協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 佐藤 哲夫



東京慈恵会医科大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院副院長、元東京慈恵会医科大学助教授。日本呼吸器学会指導医。

明けましておめでとうございます。平成三〇年は平成という時代の区切りの年であります。この年号の間にはバブル崩壊、少子・高齢化の進行、国際情勢は不安定になったように思います。テクノロジでは、生命科学やITが飛躍的に進歩しました。このような中、医療を取り巻く環境もどんどん変化しております。四月からは診療報酬の改定が控えており、働き方改革なども取り沙汰されております。目の前にある相模湾の波は普段は穏やかですが、南風が強い日は白波が立ち、塩分を含んだしぶきがガラス窓にかかります。高齢化の波の最先端にいる熱海病院は、これらの社会的状況を踏まえ、それなりの変革をしていかなければなりません。大学附属病院として診療、教育、研究に適応して更なる飛躍を目指してまいります。本年も、各位のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫



徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

当センターは、心身の障害や発達障害等における地域の療育の中核である「なす療育園」と、身体に障害を持つ方を対象とした施設入所支援および日中活動サービスを提供する「サポートハウス那須」との複合施設です。このうち、なす療育園では隣接する児童心理治療施設「那須こどもの家」の児童の発達や心理治療に対する支援に加え、昨年四月に開園した幼保連携型認定こども園「金丸こども園」の園児の健診や、病児保育のバックアップという役割も担うこととなりました。また、社会福祉法人邦友会として、本年は二か所目の認定こども園の開園と特別養護老人ホームの増床移転整備を予定しており、引き続き、当法人の特色を生かし、地域の保健・福祉・教育機関と連携して質の高いサービスをご提供するように努めてまいります。本年もご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

新宿けやき園施設長

中谷 肇一



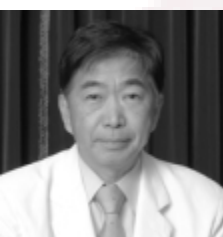
東京農工大学卒。前東京都福祉保健局健康安全部長。

当園は、ユニット型の特別養護老人ホーム、通所介護、障害者の入所支援・生活介護など、高齢者と障害者のための複合施設として開設一〇年目を迎えます。これまでの間、ご利用者・ご家族はもとより、地域の皆様に信頼される施設となりますよう、職員の確かな専門性を育むとともに、チームワークを高めることにより、サービス向上に努めています。厳しい経営環境のなか、施設の稼働目標達成をめざし、職員一同、日々の業務に情熱を持って奮闘しています。今年も、喫緊の課題である人材確保をはじめ、創意工夫を凝らした業務改善に取り組み、安定的な施設運営に邁進してまいります。引き続き、皆様方の温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

山王病院

病院長 堤 治



東京大学卒、医学博士。前東京大学医学部産婦人科学教室教授、元東京宮職御用掛。日本受精着床学会理事長、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本生殖医学会 生殖医療専門医。

国際医療福祉大学の臨床医学研究センターである山王病院は、昭和一二年の創設以来、オープンで安心な、思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてまいりました。分娩はもちろん、山王メディカルセンターと協力し、センター方式と通常の診療科をあわせて幅広い分野で外来・入院診療を行っております。がん局所療法センターでは、ナノナイフを使用した画期的治療法で、従来では不可能であったすい臓がん・肝臓がんに対して低侵襲のがん治療を行っております。アイゼンター（眼科）では、あらゆる眼科疾患に対応できる総合的な診療体制をとっております。本年もご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

高木病院

病院長 工藤 祥



九州大学卒、医学博士。放射線診断専門医、佐賀大学名誉教授、前九州国際重粒子線がん治療センター長。

当院はグループの母体病院として創立二〇八年を迎えました。基本診療科をほぼ網羅した五〇六床、二四時間救急、急性期型の教育病院であり、福岡県大川市を中心とした筑後南部および佐賀県南部の中核医療機関として機能しています。

昨年は隣接する国際医療福祉大学と共同で大型のシミュレーションセンターを開設し、医療技術の向上に役立てています。グループ内ではリハビリテーション、在宅医療、介護等の各施設との総合的業務運用が行われており、本年初頭にはグループ施設の特別養護老人ホーム「木もれ日苑」も開苑しました。地域での医療連携も緊密で、筑後南部の最後の砦として医療施設や住民からの信頼を受けています。本年も一層の発展を期しております。どうぞよろしく願います。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

災害初動訓練を実施

昨年四月に当院が栃木県地域災害拠点病院に指定されたことに伴う災害初動訓練を一月一日、実施した。訓練は、那須塩原地区を震源とする震度六強の地震が発生したことにより、多数の傷病者が出た想定で行われた。

大会議室にて災害対策本部を立ち上げて、各部署に患者、職員の安全確認およびBCP（事業継続計画）に基づく災害患者受け入れの指示が伝えられ、受付前ロビーや病院駐車場において災害外来を設営、救急隊の協力で次々に搬送されてくる模擬患者の処置にあたった。



また、災害対策本部では、災害の被害状況や患者受入などの情報を院内に周知する一方で、外部からの問い合わせに対応した。当日は当院職員の他、塩谷広域行政組合消防本部や県などからの参加者を合わせ、百人規模の大きな訓練となった。当院DMAT責任者の一瀬雅典副院長は「訓練したことがなければ本番では動けない。実災害時にどのように動いたらよいかを、これからの訓練を通して職員一人一人に身に付けてもらいたい」と話した。

（総務課 國分さやか）

児童・園児対象に
手洗い教室を実施

国際医療福祉大学塩谷病院では、塩谷地区の小学校・幼稚園・保育園を訪問し、手洗い・うがい教室を行っている。この活動は今年で八年目になり、インフルエンザの流行時期を前に実施、毎年好評を得ている。

例年一〇月から二月にかけて看護師がチームを組んで、約二〇施設を訪問し、約九〇〇名の児童・園児を対象に指導を行っている。

手洗い教室では、イラストや写真を用いたスライドを使って手洗いやうがいの大切さを伝え、その後、「うさぎとかめ」の歌に合わせて正しい手洗い方法を紹介している。



その後、子どもたちは蛍光塗料をばい菌に見立て手に塗った後、手洗いに挑戦。ブラックライトに手をかざして洗い残しを確認し、正しい手洗い方法を視覚的に学んでいる。

今後も活動を継続し、地域の感染症予防に貢献していきたい。

（総務課 國分さやか）

附属病院

国際医療福祉大学病院

二月九日（土）
予防医学セミナーを開催

国際医療福祉大学病院は平成二九年二月九日（土）、市民公開講座「予防医学セミナー」健康・ドックを上手に使うて、「生涯健康設計」を」を開催した。

同セミナーは三名の先生が講師を務め、健康チェック、病気の早期発見、健康維持の秘訣を具体的に解説した。当院の高後裕・予防医学センター長は「治療から予防への健康生活設計」をテーマに講演し、健診で健康状態をチェックし、生活習慣病を予防することがいかに重要かを訴えた。

続いて当院の安藤康宏・予防医学センター副センター長は「健康寿命は「一無二少三多」で」と題して講演し、健康のためにタバコを吸わないこと（二無）、小食・少酒であること（二少）、多動・多休・多接（三多）であることを説明した。当院の桐生茂・放射線科部長は「画像



で切らずに調べるPET・MRI・CTについて」とのテーマで、PET・CTやMRIによる画像診断の特性について分かりやすく解説した。健康を維持するために健診や人間ドックを上手に使うことが重要であることが理解され、大変有意義なセミナーとなった。

（総務企画課 平野幸宏）

一月二六日（日）
循環器センター特別講演会を開催

国際医療福祉大学病院は平成二九年一月二六日（日）、循環器センターによる特別講演会「加齢に伴う心血管病」最新の治療」を開催し、四一〇名の市民の皆様が参加した。

講演会は基調講演、特別講演、シンポジウムの三部構成とし、メインの特別講演は東北大学大学院循環器内科学の下川宏明教授に「長寿のための心臓病の知識」と題してご講演いただいた。続いて、基調講演は当院の高田剛史・循環器内科医長が「加齢に伴う弁膜症、大動脈弁狭窄症」について講演し、当院の福田浩二・ハートリズム科部長が「加齢に伴う不整脈、心房細動」について講演した。それぞれ心血管病の症状や治療法と健康寿命を延ばす最新の治療についてわかりやすく解説した。

シンポジウム「動悸、息切れすべて加齢のせいにしていませんか」では、当院の柴信行副院長が座長を務め、活発な意見交換を行った。

（総務企画課 平野幸宏）

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

第七回国際医療福祉大学
三田病院連携協議会

「第七回 国際医療福祉大学三田病院連携協議会」を昨年二月二日、当院三田ホールにて開催した。本会は地域医療機関との連携を推進するにあたり、理解と信頼を深め円滑な病診連携へと繋げることを目的としている。今回は神経内科・脳神経外科の2科合同で行い、小川聡名誉病院長をはじめ、一二施設から多くの方々に参加いただいた。

第一部の連携協議会では、神経内科部長の後藤順医師より「ふらつき、めまい、転倒の原因となる神経内科疾患」、脳神経外科部長の河島雅到医師より「日常診療で注意を要する脳血管障害・軽症くも膜下出血症例」についての講演があった。



第二部の意見交換会では、神経内科部長の村井弘之医師より開会の挨拶後、各先生方が積極的に情報収集、連携強化に向けた話し合いをされ、当会は交流を深めるための有意義な会となった。

（三田病院 地域医療連携部 音丸秋子）

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

看護学生による
クリスマスのイベント開催

「キャンドルサービス&クリスマスコンサート」が二月二五日、院内で開催された。同イベントは入院患者様やそのご家族様にクリスマスを感じていただくために、静岡県東部看護専門学校、国際医療福祉大学小田原保健医療学部との協力のもと開催しているが、同時にイベントを通じて、看護学生にも熱海病院の雰囲気を感じていただく機会にもなっている。

キャンドルサービスでは、静岡県東部看護専門学校の学生が主体となり、各病棟の看護師が扮したサンタクロースと一緒にプレゼントやクリスマスカードを入院患者様へ届けた。患者様は笑顔で受け取り、学生が歌う「きよしこの夜」に耳を傾けながらクリスマス気分を味わっていた。



クリスマスコンサートでは、国際医療福祉大学小田原保健医療学部の「軽音部」と、コーラスサークル「うたよみ」がクリスマスソングを中心に八曲を披露した。コンサートの締めくくりに、佐藤哲夫病院長からピアノ演奏のプレゼントもあり患者様も大変喜ばれた。これからの毎年、イベントを開催し患者様にクリスマスを味わっていただきたいと考えている。

（総務課 曾根大輔）

臨床医学研究センター

柳川リハビリテーション病院

樋口病院長の人工関節置換手術
実績が一年で二〇〇例に到達

柳川リハビリテーション病院は二〇一六年四月に樋口富士男病院長を迎え、同年六月には空気清浄度が最も高いクラス一〇〇のクリーンルーム手術室を完成させ、変形性股関節症・膝関節症などの股関節・膝関節疾患に対して人工股関節・膝関節置換手術を開始した。

樋口病院長は前職の久留米大学医療センターで年間二五〇件、一昨年までに約五〇〇例もの人工関節置換手術実績があり、当院では吉光一浩整形外科部長とともに執刀している。



器具や手技を工夫して傷口を小さくし、手術時間も平均六〇分と短く、術後出血が少ないことから、患者さんの負担が軽減、高齢者でも人工関節置換手術を受けることができる。また、手術翌日からリハビリテーションを開始することにより、早期の日常生活の自立を支援している。

樋口病院長チームによる人工股関節置換手術は開始から一年の昨年六月には一〇〇例に達し、二月一五日現在で二六〇例を超えた。毎月約一〇例を実施しており、今後とも精力的に「患者様に希望を与える」手術を行っていききたい。

（総務課 中川ナルミ）

臨床医学研究センター

介護老人保健施設マロニエ苑

EPA介護福祉士候補者受け入れ

「経済連携協定（EPA）介護福祉士候補者受け入れ」として、昨年六月にフィリピン候補者一名が来日した。六か月間の日本語研修を修了し、同年二月五日より当苑にて就労を開始した。

入職されたのはサンタリータ・ロネル・マルケズさん（写真右）とボルハ・メリー・アン・エス・セラさん（写真左）。フロア責任者の遠藤亮太郎係長は今回の受け入れについて、「介護福祉士候補者は、日本の介護を学ぶことに対する大きな目標と情熱を持って就労を開始しました。いっしょに働く職員の視野も広がり、ともに学ぶ意欲をもたらし、とても助かります」と、今回の受け入れを機に候補者と当苑職員が互いにより影響を受けていると話している。



●EPA介護福祉士候補者

平成二九年度 クリスマス会

昨年十二月に開催されたクリスマス会では、「きよしこの夜」、「赤鼻のトナカイ」など定番のクリスマスソングを、浦野友彦施設長によるギターの弾き語りで参加者全員が合唱していた光景がとて印象的だった。



●クリスマス会

（総務担当 大平寛）

インドネシア・ムハマディア大学 機構から三六名が本学視察

インドネシアのムハマディア大学機構の三六名が十一月一日、一五日の二日間の日程で来日し、成田キャンパス、国際医療福祉大学三田病院、大田原キャンパスを視察した。

今回の視察は、インドネシアで信者数、約三千万人のイスラム教団、ムハマディアの高等教育・研究開発理事會が主催する訪日団によるもので、参加者はリンコリ理事長、エディ副理事長を含む事務局四名と、教団傘下の系列一七三大学のなかから医学部を設置している一〇大学および看護専門大学五校の学長、副学長、医学部長を初めとする幹部三二名の合計三六名。

成田キャンパスでは、医学部の赤津晴子医学教育統括センター長や成田保健医



療学部の杉原素子学部長、成田看護学部の山下香枝子学部長、総合教育センターの高須賀茂文教授らが大学概要を紹介したのち、三グループに分れて成田看護学部や医学部の実習室などへ案内、各学部の教員が授業内容や指導内容を説明した。続いて三田病院に移動、宮崎院長の挨拶ののち予防医学センター、リハビリテーションセンター等を含む院内諸施設を案内した。

一日は大田原キャンパスで大友邦学長の挨拶につき、キャンパス内の実習室、国際交流センター、ケアセンター等を視察。その後、アスリーナでの昼食懇親会では、大友学長、松谷有希雄副学長、新井田孝裕副学長の参列のもと来校した一〇大学から記念品贈呈式が行われ、訪問日程を終えた。

ムハマディア大学機構と本学の交流協議では、医学・薬学・医療分野での共同研究のほか教員・学生レベルでの一般交流や医学部生の受け入れ等の広範な可能性を継続して検討することになった。

(東京事務所国際部 當麻和則)

シンガポール工科大学と 学術交流協定を締結

国際医療福祉大学はシンガポール工科大学と十一月二四日付で学術交流協定を締結した。シンガポール工科大学は、シンガポールに六校ある国立大学の一つで、設立は二〇〇九年。本学と協定を結んでいるナンヤンポリテクニクの理学療法、作業

療法、放射線画像、放射線療法の各学科が今年三月までにシンガポール工科大学に移管されることになったため。移管後はシンガポール工科大学がシンガポールで唯一これらの学科を持つ大学となる。

今回の学術交流協定の締結にあたっては、健康社会科学部門のベンジャミン・スー・理療学療法学科長、ビン・リット・タン作業療法学科長、アンソニー・ゴ一国際部長が七月二二日に本学大田原キャンパスとグループの医療福祉施設を視察、大友邦学長ら本学幹部と協定締結に向けた協議を行なった。本覚書は、学生や教員の相互派遣や、講演・シンポジウムの開催などについての学術交流、協力に関する一般的な内容となっている。

今後、同大学との学生や教員の相互派遣などの交流を通して、なお層、両大学の友好関係が発展、促進されていくことが期待される。

(国際部 稲垣有美)



海外提携校さらに拡大 三九校に

二〇一七年度下半期に入り海外の医療系大学との交流協定がさらに拡大した。一〇月にはロシアのモスクワ第二医科大学、十一月にはベトナム フエ医科大学と大学およびシンガポール工科大学との学術交流協定を締結しました。これで本学の海外締結先(大学・機関・病院)は合計で三九校となり、国・地域別にみると、新たにロシアが加わり、二一を数えることになった。

モスクワ第二医科大学はロシアで二五〇年以上の歴史を持つ最古の医科大学で、附属病院は欧州最大級の三三〇〇床を持ち、二〇一六年には日本の東芝メディカルへ現キャンメディカルシステムズ等が協力し設立された循環器画像診断トレーニングセンターで最新の医療を提供しており、本学との画像診断分野を始め広範な学術交流に合意した。

フエ医科大学は、ベトナムの三大医科大学の一つに挙げられる中部地域の医療保健科学を先導する医学部・看護学部・公衆衛生学部等を擁する医療系総合大学。同大学のタイン学長、トウン大学協議会会長他の来日訪問時に、本学での医学部留学生の受け入れを始めとする学術交流の合意書を締結し、今後の友好関係の強化を確認しました。

シンガポール工科大学との協定を含め下半期に入り三校との提携が実現し、今後本学の活発な国際交流活動へむけたネットワークを構築する予定。

医学部入学予定の一七名が 留学生別科で勉強中

今年四月に成田キャンパスの医学部に入學予定の奨学留学生一六名が昨年秋季以降四回に分けて来日した。その都度、医学部教員ならびに日本語教員からの温かい出迎えを受け、日本での生活や授業についてのオリエンテーションに参加した。

すでに昨年四月に来日していたラオスの学生一名も合流し、留学生別科で日本語の学習を開始。中級クラスの四名を除いてはほぼゼロからのスタートだが、意欲的に日本語の習得に取り組んでいる。また、必要に応じて理数系の科目や英語の補講も受講し、四月からの医学部入學に備えている。



●公民館で行われた茶道の会に参加した10名の留学生と高須賀茂文教授(中央)

このたび来日したのはモンゴルから二名、カンボジアから二名、ベトナムから八名、ミャンマーから三名、インドネシアから一名の計一六名。各国政府や母国を代表する医科大学などから推薦を受けた優秀な学生達で、将来は母国の医療分野のリーダーとして活躍することが期待されている。

一七名の別科生達は日本の文化・社会など様々な事に興味を示し、地域の方との交流、日本語での年賀状書き、茶道やちぎり絵など、勉強だけでなく文化体験にも積極的に参加している。

(成田キャンパス国際部 金光 美貴子)

オーストラリア・ビクトリア州 留学奨学金(官野陽介記念奨学金)募集

オーストラリア・ビクトリア州政府は、同州で交通事故致死した国際医療福祉大学の卒業生、官野陽介さん(当時二六歳)の人生をたたえて、同州に留学を予定する本学の学業成績の優秀な学生、卒業生を支援するための奨学金を創設した。官野さんは小田原保健医療学部作業療法学科を卒業後、メルボルンで語学留学中の二〇一七年一月に不幸にも車の暴走事故に巻き込まれ、亡くなられた。同奨学金は思いに残る学習、人生経験の機会を学生に与えること、そしてビクトリア州と日本のより深いつながりを育むことを目的として、二〇二二年までの五年間、毎年学生一名に授与する予定。

今回の応募資格は①本学在学生または卒業生②ビクトリア州の教育機関に、最短四週間以上、最長五二週間以内で留学すること(二〇一八年四月一日～二〇一九年三月二二日までの留学が対象)③留学中および前後でビクトリア州と日本の親善大使として協力できること。一件の奨学金上限は一万豪ドルまで、フライト費、宿泊費、授業料、生活費等に充てることができる。

二月一五日に申し込み締め切り、二月末ごろに選考結果を通知する予定。申し込み方法や詳しい内容は本学のHPを参照してください。

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第9回

史怡さん 中国内蒙古出身
小田原保健医療学部 看護学科二年



中国で看護師の資格を取り、得し、看護師として五年間、病院で働いてきました。病院の医師や親戚から日本の医療について話を聞く機会があり、日本でも看護師の勉強をしたくなり、国際医療福祉大学に入學しました。

日本と中国の病院は雰囲気違います。中国では、「病院は病気を治すための場所」という雰囲気、看護師は看護技術を使うだけという感じでした。日本の病院では、ロビーにソファがあつて和やかな雰囲気、看護師は看護技術だけでなく、患者様とのコミュニケーションを大切にしている印象です。

日本と中国の看護師を目指す勉強にも違いがあります。中国では古い情報で講義を受けてきたので、実習や臨床の場で戸惑うこともあり、日本では新しい情報で講義を受けることができるので、実習で戸惑うことがほとんどありません。

小田原キャンパスの先生や友人たちは、留学生が日本での勉強に慣れるように、たくさん配慮をしてくださいます。

二月六日に「留学生との交流会」が行われ、留学生と日本人学生で鎌倉の小旅行を楽しみました。

北鎌倉駅を降りてすぐの円覚寺に行きました。円覚寺は鎌倉幕府第八代執権の北条時宗が二八二一年に創建し

たお寺です。仏殿は円覚寺の本尊宝冠釈迦如来があつて本尊の傍らにはこの寺の開祖で無学祖元禪師や達磨大師の像もあります。境内の長い階段を上がり、弁天堂にも行きました。弁天堂からの景色は、とても気持ちよかったです。

円覚寺の次は東慶寺に行きました。東慶寺は花の寺としても有名で、一年を通して色々な花が観賞できます。二月下旬はもみじと桜梅を見ることができました。門からまっすぐな小道の奥は仏像があります。小道の両側に冬枯れの美しい庭があります。その他、建長寺、鶴岡八幡宮を拝観して、小町通りで買い物を楽しみ、最後に参加者で食事をしました。食事は和やかな雰囲気、日本人学生から良いアドバイスをいただきました。

また、今年度の前期は、看護学科准教授の青柳美樹先生に、私の日本語の勉強を手助けしていただきました。

中国でも翻訳され、私の大好きな本である村上春樹著の「アンダーグラウンド」という本と一緒に読んで、日本語の解釈を間違えたら指摘していただきました。

私の当面の目標は、日本で看護師の国家資格を取ることです。そして、日本で看護師として働きたいと思っています。



●みんなと仲良くなれた鎌倉の小旅行

各キャンパスで
地元自治体との懇談会開催

大田原、成田、小田原、大川の各キャンパスと地元自治体との平成二九年年度の代表者懇談会、地域連携推進協議会が開催された。



大田原市との代表者懇談会は二月二七日に開催され、津久井富雄市長が「四千人の在校生のみなさんが卒業されても、第二のふるさととして思い出してもらえる町になるよう最大限の努力をします」と挨拶。これに対して高木邦格理事長から「大田原キャンパスが学生にとって素晴らしい学業、生活の場となるよう、市による環境整備を期待する」と述べた。協議では、大田原市から入学者の地域特別選抜枠の拡大および産官学連携事業の推進についての継続的な協力要請があり、本学からは地域連携を図る取り組みを行うにあたり、意見交換や相互提案を継続的な実施およびスクールパス運営

における費用補助の継続についての協力を要望した。

成田市との地域連携推進協議会は一月一七日に開催。高木理事長から「開設した医学部は二、三年次の大多数の授業を英語で実施することが課題とみていたが、学生らの英語力はずいぶんとアップしており、予想以上にうまくスタートが切れた。一〇月には大学院医学研究科が認可され、これで車の両輪が完成した」と現状を説明。これに対して、小泉一成市長は「成田キャンパスのある公津の杜には若い人がずいぶん増え、(教職員らが)地域の一員として地元の行事に参加いただき感謝している。附属病院(成田病院)の着工も進み、市民の期待も大きく、全力でバックアップしていく」と引き続き支援する姿勢を示した。

要望事項の協議では成田市から、国際医療福祉大学成田病院の建設工事関連も含め、地元業者の活用について要望が寄せられた。本学からは、グラウンド等用地の提供や成田病院に関するインフラ整備等や介護施設等の整備、解剖学実習に備えた献体への協力、教育課程編成に関する意見交換、市民公開講座等への協力を要望した。

小田原市との代表者懇談会は一月二日、開催され、小田原市より加藤憲一市長が出席、市からの報告事項として、小田原市の主要事業となっているお城通り地区再開発事業と、市

民ホール整備事業についての説明があった。本学からは小田原キャンパスの学生の状況、小田原市や関係団体との連携の状況、熱海病院の現況について説明した。

その後、要望事項についての説明があり、小田原市からは、小田原市が計画している史跡回遊路の整備への協力と、小田原市立病院への本学学生の就職斡旋の協力について要望があった。本学からは、小田原保健医療学部の教育課程編成への協力、市民公開講座等への協力、小田原キャンパス周辺の環境整備について要望した。

一月三〇日には大川市との代表者懇談会を開催。開会前に大川市の要望でインターネット等で話題となったネコ家具のCMを放映、和やかな雰囲気での開会となった。

倉重良一市長の挨拶後、大川市と本学との連携事業、大川市、関係団体及び周辺地域との連携状況、高邦会グループのプロジェクトについての報告がなされた。要望事項として、大川市からはささえ合いのまちづくりについて語り合う会への学生への参加依頼や商店街の活用についての要望が出され、本学からは街灯の整備や飲食・ショッピング施設誘致など少しでも学生が住みやすい街にしたいと大きく依頼がなされた。高木理事長より大川市の発展のために留学生を受け入れる体制づくりや奨学金創設の提案があった。

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学修の場を提供しています。

IUHW Graduate School Informations

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」
社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス

大田原、成田、東京青山(2018年4月東京赤坂に移転)、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。

②カリキュラム

多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。

③同時双方向
遠隔授業

複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 2018年4月 東京赤坂キャンパス開設!

東京都港区赤坂の旧赤坂小学校跡地に開設する東京赤坂キャンパスでは、現在の東京青山キャンパスを移転し、医学研究科をはじめとする新しい研究科・分野・コースを開設するなど、生涯教育の拠点として大学院教育のさらなる拡充をめざします。

詳細は大学院ホームページをご覧ください

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287-24-3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

●介護・福祉分野

自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護



●医療・福祉・経営実務

社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション
共通分野

リハビリ職のための医療福祉管理

●受験講座

ケアマネジャー受験講座2017

●厚生労働省情報

障害保健福祉関係主管課長会議

(平成29年3月8日開催) ※無料配信

老健局全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議

(平成29年3月10日開催) ※無料配信

●乃木坂スクール

支援機器活用の最前線(生活支援機器概論)

●情報BOX

納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IHWグループ職員・学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」<http://www.ch774.com/student.php>

主な
配信番組

●大学授業・副教材

死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論 など

広報誌 IUHW 112 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔成田キャンパス〕

千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕

福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

編集：東京事務所広報部 ☎03-3475-7710

デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.iuhw.ac.jp/>

©国際医療福祉大学2018 Printed in Japan 禁無断転載・複写

【平成29年度 学位記授与式】

■学部／大学院 学位記授与式

・大田原キャンパス 学部／大学院

平成30年3月7日(水) 10:20～

那須アスリーナ(体育館)

・小田原キャンパス 学部／大学院

平成30年3月9日(金) 10:20～ 本校舎講堂・ラウンジ

・福岡キャンパス、大川キャンパス 学部／大学院

平成30年3月5日(月) 13:00～

福岡国際医療福祉学院体育館

■大学院 学位記伝達式・修了生歓送会

・東京青山キャンパス(東京青山／小田原／熱海)

平成30年3月10日(土) 16:00～

東京青山キャンパス 5階A教室・ホール

■卒業式

・塩谷看護専門学校

平成30年3月6日(火) 10:00～ 本校講堂

【平成30年度 入学式】

■学部／大学院 入学式

・大田原キャンパス 学部／大学院

平成30年4月3日(火) 10:20～ 那須アスリーナ(体育館)

・成田キャンパス 医学部、成田看護学部、成田保健医療学部

平成30年4月5日(木) 10:20～ 成田国際文化会館

・東京赤坂キャンパス 学部／大学院

平成30年4月7日(土) 15:00～ 東京赤坂キャンパス講堂

・小田原キャンパス 学部／大学院

平成30年4月7日(土) 10:20～ 城内校舎体育館

・福岡キャンパス、大川キャンパス 学部／大学院

平成30年4月6日(金) 11:00～ 大川キャンパス講堂

■入学式

・塩谷看護専門学校

平成30年4月6日(金) 10:00～ 本校講堂

【開設式】

・東京赤坂キャンパス 学部／大学院

平成30年4月4日(水) 10:00～ 東京赤坂キャンパス講堂

大田原キャンパス「OPST部」(海外のヘルスケア事情に取り組む部活)



1997年創部のOPST部は現在部員26名で活動しています。今年度代表の大田原キャンパス保健医療学部言語聴覚学科2年^{のつか}篠塚希莉香です。正式名称は「Overseas Primary Health care Study Team」。世界と日本の医療福祉について考える部活です。最近では医療福祉にとどまらず、世界の文化について関心を持つ部員も多いため、海外の話題を持ちより情報交換をする活動もしています。ボランティアセンターの教職員の皆さまにご協力をいただいています。



今年度は主に3つの企画に取り組みました。11月には大学構内のL棟前広場にて「キャンドルナイト」と、ボランティアセンターで「勉強会」を開きました。キャンドルナイトはエネルギー政策を考える活動として始まりましたが、今では世界的に展開されているスローライフ・ムーブメントとなり、夏至や冬至に近い時期に行います。



キャンドルの灯りを囲みながら、ゆったりと日常を振り返る機会としてもらいたいという目的があります。OPST部だけではなく、アカペラサークルや交響楽部にも協力してもらい、心地の良い演奏を聞きながらキャンドルを眺め、たくさんの学生と教職員の皆さんが、一体感のあるあたたかな時間を過ごすことができました。

勉強会は、青年海外協力隊として活動された方を講師にお招

きし、海外で医療職がどのような役割を果たされているのか、またボランティアについて講演していただきました。ボランティア協力に関するグループワークも開催し、ボランティア活動に参加している学生もそうではない学生も自分の思いを伝え、グループで話し合った意見を発表しました。参加者から好評でしたので、今後も定期的に勉強会を開催したいと思っています。

12月には韓国のコニャン大学・理学療法学科の留学生23名との国際交流を行いました。コニャン大学の学生に大田原キャンパスの学食を体験してもらい、昼食を取りながら携帯アプリの韓国語の翻訳機能を用いたり、英語で会話をしたりして、短い時間の中で精一杯の意志を伝えてコミュニケーションをはかる姿勢が両国の学生に見られました。

昼食後は、ボランティアセンターでクリスマスケーキ作りのレクリエーションを行いました。トッピングのお菓子も日本のチョコ菓子を多く用意し、みんなでケーキのデコレーションをしながら、韓国と日本の大学生活の違い、大学生に人気のあるものなどについての会話を楽しみました。連絡先を交換する光景が多く見られ、お互いの友情が築かれました。

素敵な国がたくさんあることを多くの方に知ってもらえるよう取り組んでいきます。来年度は本学に在籍している留学生との交流や、海外の子どもたちへの募金活動なども企画したいです。他キャンパスで海外との交流をしている学生団体がありましたら、キャンパス間交流も実現したいと考えております。年間を通して部員を募集しており、海外に興味がある学生や医療福祉の知識を深めたい学生は、ぜひOPST部の活動に参加してみませんか？



塩谷看護専門学校において
恒例の「看護の誓いの式」が
厳かに挙行された。(P9)

